

誰もが安心して暮らせる平和な社会を目指して活動する

NGO「テラ・ルネッサンス」ニュースレター

けっしょうも

結晶母



2004年 夏号

発行:テラ・ルネッサンス

テラ・ルネッサンスマスコット

特集:アフリカ調査派遣事業(子ども兵・小型武器)

■派遣スタッフ、無事に帰国

2004年4月12日(月)に、子ども兵、小型武器問題の調査のために、アフリカ(ウガンダ、ルワンダ、ザンビア)に派遣していたスタッフ3名が無事帰国しました。

《派遣スタッフ》

- ・鬼丸昌也(テラ・ルネッサンス代表)
- ・小川真吾(ネットワーク地球村スタッフ)
- ・山田しん(フォトジャーナリスト)

■アフリカ調査派遣事業について

世界には確認されているだけで約30万人の子どもたち(18歳以下)が兵士として戦っています。その多くが誘拐され、強制的に兵士とされた子どもたち。彼らのことを「子ども兵」と呼びます。

また、子どもが兵士として活動できるようになった大きな原因が、小型武器が世界中に安価で大量に出回っていることが挙げられます。

2003年よりテラ・ルネッサンスでは子ども兵・小型武器問題への取り組みを始めています。2003年8月にはイギリスにてIANSA(小型武器国際行動ネットワーク)、CSC(世界子ども兵禁止連盟)を訪問し、世界規模での取り組みに日本のNGOとして参加を表明。帰国後、それらの問題に関心のあるNGOとの対話を重ねています。

■アフリカ調査派遣事業の概要

《主催》テラ・ルネッサンス

《共催》ネットワーク地球村

《日程》2004年3月28日～4月12日

《調査先》ウガンダ、ルワンダ、ザンビア

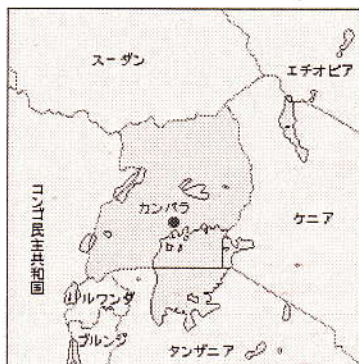
《目的》

- ① 小型武器や子ども兵に関する広報資料(出版物、ビデオなど)を作成するための現地取材
- ② 小型武器、子ども兵の問題に取り組んでいるNGO/団体とのパートナーシップの構築

《帰国後の展開》

- ① 調査派遣事業報告書、報告ビデオの作成
- ② 全国各地での報告会の開催
- ③ マスコミを通じた世論喚起

■現地(ウガンダ)からの報告



ウガンダ地図

今回、訪れたウガンダ・ルワンダ・ザンビアの中で、私たちが注目していたのが、ウガンダでした。内戦の続く北部ウガンダ地方には、

たくさん子ども兵が存在し、今も戦い続けていると聞いていたからです。取材も1週間にわたり、密度のある取材ができました。下記にウガンダでの報告をまとめましたので、ご一読ください。

■ウガンダの歴史

1962年、英国より独立。翌年より共和制となるも、66年のオボテ首相によりクーデター発生。以後、独裁政権の登場とクーデターが繰り返される。特に1971～79年の間、権力を握っていたアミン氏は「地獄」と呼ばれる独裁体制を築き、反体制派や外国人30万人を虐殺したと言われる。1986年、ムセヴェニ氏率いる「国民抵抗運動」が当時の軍事政権を破り、国土の大部分を制圧、同氏は大統領に。以後、2回の選挙で再選され、今日に至る。

LRA等によるゲリラ活動、エイズ、エボラ出血熱等により人々の不安は大きく、新興宗教の増加、カルト教団による集団自殺等、悲惨な事件も起っているが、経済は徐々に回復し、エイズ感染率も低下、政府の支援により就学児童も急増する等、国土再建に向け着々と歩んでいる。(参考:外務省HPなど)

■誘拐された子どもたち

そんな「アフリカの優等生」と呼ばれるウガンダでも、グル市を含む北部ウガンダ地方で、政府軍と反政府グループ「神の抵抗軍(LRA)」の交戦が続いている。その中で、多くの子どもたちがLRAに誘拐され、兵士として戦っている。その数は1986年以降、45,000人にもものぼると言われている。

GUSCOは1994年に設立され、ウガンダ政府軍によって解放された元・子ども兵を收容し、食事を提供したり、リハビリテーション、ゲーム・ワークショップを通じたメンタル面のリハビリテーションも行っている。

また、職業訓練(自転車修理、刺繍など)を行い、彼らの完全な社会復帰を実現するサポートを実施している。

誘拐されていた時に、様々な体験をした子どもたちが、この場所にいた。私たちは、ワールドヴィジョンというNGOが運営する施設と合わせて、

計8人の子どもたちにインタビューをすることができた。

そのうちの3名の体験をご紹介します。

■Aさん(23歳/女性)



1994年、彼女が13歳の時に寝ている間に誘拐され、スーダンへ連行された。疲れや飢えを訴えた子どもは殺された15歳のときに強制結婚で2名の子どもを出産。夢は織物の店をつくること。

■Bさん(16歳/女性)

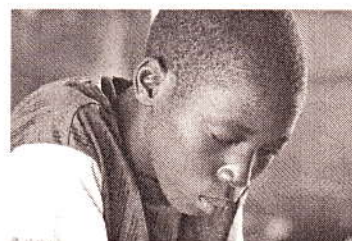


2002年、午後7時に家にいるときに誘拐される。政府軍と戦って近くの子どもを殺した。LRAから逃げ出したら、政府軍に殺されると教え込まれていた。自分にとって幸せとは、自由。そして他の新しい子どもたちが戻ってくること。

■C君(16歳/男性)

2002年、お母さんが別の村に行くと、それを追って行った時に、LRAに誘拐された。自分の住んでいた村に連れて行かれ、お母さんの腕を切断、ボロボロになるまで殴られさせられた。

将来は医者になりたい。医者はこの世でもっとも尊敬される職業だから。



子ども兵、小型武器問題に取り組み始めて、約1年になる。文献、資料でいくらでも、このような事例は知っているつもりだった。けれども、目の前にいる10代、20代の子どもたちから、搾り出すように

して語られる体験は耳をふさぎたくなるようなものだった……。

今でも世界中で子どもたちは武器を取って戦っている。この子たちと同じように……。

■紛争と非暴力

紛争の最中にありながら、非暴力的手段によって、紛争を終わらせようとする人々に出会った。アチヨリ宗教者平和創設委員会だ。

イギリスの植民地だったウガンダは、英国国教会（アングリカンチャーチ）を始めとするキリスト教徒が多い。ただ、同じキリスト教徒でも宗派の違いから対立があった。

そんな対立の時代が続いたが、長年続く戦争、それによる人々の苦しみを前にして、彼らは分裂していることよりも、平和の実現のために団結する道を選ぶことを決意した。そして、結成したのがアチヨリ宗教者平和創設委員会だった。後に、イスラム教指導者、民族宗教の指導者などが参加。まさにインターフェイス（宗際化）組織となった。



アチヨリ宗教者平和創設委員会にて

彼らのオフィスを訪れたときに、私たちは壁に掲げられたスローガンに心奪われた。そのスローガンは単純だが、戦争の続く北部ウガンダでは説得力があり、重みのある言葉だった。「STOP FIGHTING（争いは止めよう）！ START TALKING（対話を始めよう）！」

スローガンどおりの活動を彼らは展開している。過去 20 回近く、ウガンダ政府軍と神の抵抗軍の調停交渉を取り持ってきた。その成果として、2003 年 2 月に停戦合意が結ばれたが、翌月、ウガンダ政府軍によって合意は破棄され、戦闘が続いている。

けれども彼らはあきらめない。毎年 12 月には様々な信仰を持つ人々が集まり、ピースマーチ（平

和の行進）を行っている。彼らは地域の住民に語りかける。

「STOP FIGHTING（争いは止めよう）！ START TALKING（対話を始めよう）！」

戦争の最中にある北部ウガンダで、対立を争い以外の方法（対話）で解決しようとする彼らの努力に、本当に頭が下がる思いがした。

彼らとの 2 時間もの対話の最後に、私たちが質問をした。「皆さんが願う平和なウガンダ（世界）はどのようなものでしょうか？」

「自分たちが持っていた素晴らしい日々（オリジナルグットデイズ）、それは仕事があり、ご飯が食べられ、平和が続き、発展していく町、それが私たちのビジョン。」彼はこう答えてくれた。

世界中の誰もが願うビジョン（夢）だと思った。ウガンダ、日本、2 つの国は離れていても願うことはひとつ。それは「平和」だ。

■リチャード氏との出会い

私たちが忘れることのできない人物が、ウガンダ人の NGO 活動家、リチャード氏。彼はサリドマイド児として生まれ、彼の両手には「障害」がある。彼の生い立ちから現在までの話を聞かせてもらった。

彼は学生時代に友人たちから、もって生まれた障害ゆえに「いじめ」を受けることになる。それはとてもつらく悲しいものだったらしい。

けれども彼は、差別に対して、怒りや憎しみを持ったり、いじめた人に復讐をするのではなく、社会から差別をなくし、どのような障害を持っている人でも、社会参加できるように、活動を始める。

さらに、彼は障害者支援を続ける中で、小型武器によって障害を受けた人々が、ウガンダに多く存在することに気づき、小型武器規制のための活動を展開する。

その手法はとても見事なものだ。現在、ウガンダにある 62 の NGO が加盟する「ウガンダ小型武器行動ネットワーク(UANSA)」を結成。政府も巻き込んで、小型武器に対する法的な規制を制定するキャンペーンを実施、地域住民に対する小型武器のワークショップを開催するなど熱心な活動を行っている。

また、ウガンダでの経験を踏まえて、東アフリカ 10 カ国にも同じような組織が設立され、それらを連

合して、東アフリカ小型武器行動ネットワーク (EAANSA)も設立してしまう。



UANSA コーディネーター リチャード氏

なぜ、彼は人と人、団体と団体を結びつけることができってしまうのか。そんな思いにかられていると、彼が大切な言葉を教えてくれた。

「ネットワークをつくる3つの大切な鍵がある。

まずは、それぞれの団体、個人が違うものだ、ということをはっきりと理解すること。設立された背景、目的も違うのだから、価値観、考えかたが違って当たり前だよ。

そして、次に大切なのは、そんな価値観、考え方の違う団体、個人同士の中にも、何か共通して実現したい願いがあるんだ、と信じるのが大切。それは平和という目的かもしれないし、小型武器の規制という願い、目標かもしれない。具体的にはっきりしなくてもいいと思うんだ。まずはみんなが何か同じものを目指しているということを感じぬことなんだ。そのうちに必ずはっきりしてくるものだよ。

最後に、そうしていると他人の活動、他の団体の活動が、他人事とは思えなくなるんだ。まるで自分がやっている活動のようにね、他の人の活動の成功を喜べるようになるんだ。まるで他者の活動が、自分の内側に入ってくるような感覚だね。そうするとネットワークは自然とできてくるものだよ。」(要約: 鬼丸)

夜遅くまで、彼は私たちに語り続けてくれた。

■ 願いを持ち続ける勇氣

帰国後、全国リレー報告会の準備や、調査派

遣事業に関するマスコミの取材の対応などに追われていた。

けれども、実際に耳にした元・子ども兵士たちの声、そして、ウガンダで活動する様々な人々の願いを忘れることはひと時もない。

子ども兵や小型武器の問題は、とても深刻な状況であることには間違いない。ただ、確実にいえることは、その深刻な状況を変えようとする人々がいるという事実である。

元・子ども兵士の C 君は、将来、医者になりたいという。けれども、彼を取り巻く環境では、勉強もできないという。彼は私たちに『医者になるためにどうしたいの』と質問をしてきたことがあった。

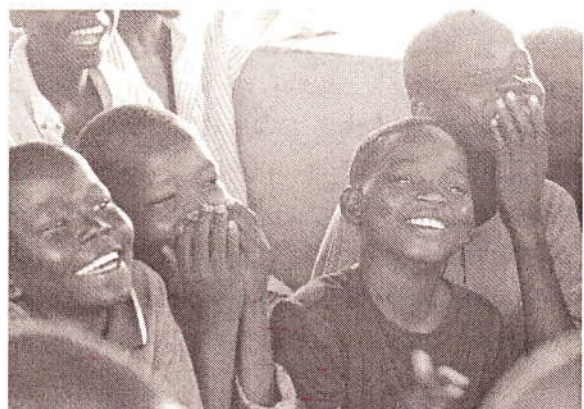
私たちは彼にいろいろ答えたが、最終的にはありきたりだけれども、「勉強することも大切だけれど、一番大事なのは、医者になりたいという願いを持ち続けることだよ。」と伝えた。

その言葉を発したときに、私が強烈に感じたことがある。「願いを持ち続ける勇氣は彼にとっても必要かもしれないが、一番必要なのは、私たち(先進国の人間)なのではないだろうか・・・」と。

私たちの日常生活の中では、国内外問わず、様々な悲惨なニュースがたくさん伝えられる。何度も耳にするうちに、私たちは無意識の内に、この状況を受け入れてしまっているのではないだろうか。原因を社会の誰かのせいにして・・・。つまり、解決をあきらめてしまっているのだ。

けれども、紛争の最中にいて、大きな苦しみを背負っている人々は、未来をあきらめてはいなかった。変えられると信じていた。その強さは、現代の私たちにない強さだった。

「どんなに困難な状況にあろうとも、問題解決をあきらめない勇氣。平和への願いを持ち続ける勇氣」を、与えられたのは、結局のところ、私たちだった。



■全国リレー報告会、始まっています

子ども兵・小型武器に関するアフリカ調査の報告会を、4月29日の希望の光セミナー(共催:コスモライフ研究会)を皮切りに、全国各地で開催しています。

初めて子ども兵や小型武器の話を知る方も多く、ショッキングな内容に驚かれる方もたくさんいらっしゃいました。特にウガンダでの元・子ども兵士へのインタビューのところでは、同じ年齢の子どもを持つ母親の、沈痛な表情は忘れることができません。



けれども、報告会では絶望的な現実をお話するだけではありません。子ども兵や小型武器の問題を解決するために、国際社会が、日本が、そして私たちに何ができるのか、参加者の皆さまに提案もさせて頂いています。「自分にもできることがある」と気付くことで、私たち一人ひとりの中に「行動する勇気」が生まれてくるのだと確信しています。今回の全国リレー報告会の感想でも、たくさんの勇気ある言葉を見つけられました。

報告会は引き続き、全国各地で開催する予定です。一人でも多くの方に聞いていただきたい話ですので、ぜひ皆さまも報告会を主催してみませんか。報告会開催を希望される方は、お気軽にテラ・ルネッサンス事務局までご相談ください。(テラ・ルネッサンス報告会受付 TEL:075-645-1802)

【参加者感想】

* 私は思わず目をつぶりたくなりました。でも鬼丸さんは一生懸命それと向き合って、ずっと話しかけてくれていました。その姿にすぐにひるんでしまう自分をふるいたたせる勇気が、どこかにひそんでいることに気付いたように思います。

* 自分の知らない時に、こんなにもひどい事が多くの地で、今現在も置き続けているという事実に衝撃を受けました。そして、少しでも多くの子どもを救うためには、まず「自分」が何か行動を起こさなければならないのだと、初めて教わりました。今回の講演に参加できて本当に良かったです。

【主催者感想】

すばらしい講演会をありがとうございました！何よりも鬼丸さんの本気、真摯な生き方が伝わった講演会でした。

みなさんの聴く態度もすばらしく、真剣でした。絶望的な状況からでも私たちのできることの希望はある。まず、事実を知り、できることからはじめ、一番大切な人に伝える。という生き方の部分が十分伝わったと思います。長崎連続3講演会で多くの方に聴いてもらうことができ、ナガサキの地から少しずつでも、平和な世界を拓けることができるようにしたいと思っています。

(長崎市 上原さん)

...【実施日時・場所 6月末日まで】...

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 04月29日 東京都江戸川区 | 05月25日 熊本県熊本市 |
| 05月09日 京都府京都市 | 05月26日 宮崎県宮崎市(2回) |
| 05月10日 福岡県大牟田市(2回) | 05月28日 鹿児島県串木野市 |
| 05月11日 福岡県大牟田市 | 05月29日 佐賀県佐賀市 |
| 05月12日 福岡県柳川市 | 06月02日 福島県会津若松市 |
| 05月13日 福岡県大牟田市(3回) | 06月04日 宮城県仙台市 |
| 05月15日 栃木県足利市 | 06月05日 東京都渋谷区 |
| 05月21日 長崎県佐世保市 | 06月06日 愛知県名古屋市(2回) |
| 05月22日 長崎県大村市、長崎市 | 06月22日 京都府京都市 |

30万人の子どもが戦わなくもいように

●子どもが戦う？

10代の子どもの武器を取って戦っている。
日本では想像もできない状況が、繰り広げられています。武器が小さく軽く、自動で扱えるため、子どもたちも徴兵されるようになりました。



元・少年兵の子どもたち。まるで生気がない

●見えない兵士と呼ばれ…

子ども兵は「見えない兵士」と呼ばれています。一つの理由は子どもたちが殺されることで、この世界から消えてしまうため。もう一つは、子どもたちが成長し、肉体的には子どもと大人の区別がつかなくなってしまうことです。

肉体的には大人に見えても、子ども時代を戦闘と暴力の中で過ごしてきました。心に受けた傷、暴力で物事を解決しようとする考え方は、大人になっても残ります。過去を見つめ、心の傷を癒すためのリハビリが彼らには必要です。

けれども10代で徴兵され、10年後に武装解除されたときには20代。子どもたちは大人として扱われ、心理的なりハビリを受けることなく、突然訪れた「平和な」社会に放り出されま。彼らは急激な変化を受け入れることができません。子ども兵時代と同じく暴力と武器で全てを解決しようとします。暴力と憎しみの連鎖は続いていくのです。

現在、約30万人の子どもたちが、兵士として戦っています。イデオロギーに洗脳され、麻薬やアルコールで感覚を麻痺させられ、子どもたちは戦い続けます。

●アフリカのある少年の例

ある少年は、突然、ゲリラたちに連れ去られ、大人と同じ軍事訓練を受けます。訓練を積んだ子どもたちは、上官にある場所へ連れて行かれます。そこは自分の生まれ育った村。上官は命令をします。「自分の親を殺すんだ。それが最終テストだ」。子どもたちは親を殺さなければ、自分たちが殺されることを知っています。持っていた斧で、肉親を殺していきます。

残虐な行為にも理由があります。軍隊にいる子どもたちは殆ど似た体験をしていますので、軍隊の中では、周囲の大人たちから(普通の)人間として扱われます。けれども、子どもたちを殺人者として見る人々の冷たい目が待っているのです。そうして彼らは軍隊の中から逃げ出さなくなります。



一生懸命逃げ出してきた、
その足はボロボロだった。

●今、私たちにできること ～愛の反対は無関心～

とても悲しい現実です。でも、今、必要なのは「私たちが解決をあきらめないこと」。マザーテレサが残した「愛の反対は無関心」という言葉があります。

この悲しい現実をしっかりと受け止め、私たちに何ができるのかを考えることが、今の私たちにまずできることではないでしょうか？

私たちにできること

- ・紛争下におかれている子どもたちの現状を知る
- ・現状を周囲に伝える(友達に話す。講演会、写真展を企画など)
- ・地元選出の国会議員に子ども兵規制、小型武器軍縮に向けて取り組むように手紙、FAX を送る



リハビリを受け、笑顔を取り戻す。
この笑顔が永遠に続くように・・・。

●テラ・ルネッサンスの挑戦

テラ・ルネッサンスでは、2003 年より子ども兵、そして、子ども兵を増やす原因でもある小型武器問題に取り組み始めています。悲しい現実を変えたい。80万人の子どもたちが戦わなくても済む平和な社会を築くために、私たちは挑戦を続けます。

まずは「子ども兵」、「小型武器」の現状を広く人々に伝えること。子ども兵のケアを推し進め、子どもを兵士にしないように国際的な監視体制を整えること。できることはたくさんあります。

皆様の関心が私たちの活動の原動力です。どうぞ心の舵を平和な未来へ向けて下さい。よろしくお願いします。

文責：鬼丸昌也(テラ・ルネッサンス代表)

《参考文献》

レイチェル・ブレット/マーガレット・マカリン著『世界の子ども兵 見えない子どもたち』2002年発行 新評論
クリストファー・フレイヴィン編著『地球白書 2002-03』2002年発行 家の光協会
アムネスティ日本事務所ホームページ <http://www.amnesty.or.jp/>

《協力：写真提供》

下村靖樹氏(ジャーナリスト) <http://www.realtime-press.com/>

■2004 年春 カンボジアスタディツアー



大量に見つかった地雷のひとつ(MAGの除去現場)

毎年3月に実施しているカンボジアへのスタディツアー。今年も地雷ゼロ宮崎(事務局:宮崎県宮崎市)との共催で、3月9日(火)から17日(水)の日程で実施しました。

テラ・ルネッサンスからは代表を含む、3名が参加。今回、プノンペン市からバタンバン市へ運行していた飛行機が休止になったため、約6時間もかけてチャーターバスで、バタンバンまで移動することになりました。途中、バスのクラクション(警笛)が壊れてしまいます。カンボジアなど途上国では、とんでもないスピードで自動車は道を進んでいくのですが、他の自動車や人を抜き去るときにクラクションを使って、半ば脅しながら進むのです。その大切なクラクションが壊れてしまったので、どうなることやらと、とても心配しました。

スタディツアーでは、テラ・ルネッサンス・地雷ゼロ宮崎が支援するNGO・グループの活動状況を見学することが重要なテーマです。今回、訪問した先は、難民を助ける会の運営するキエンクリエン職業訓練所(障害者への職業訓練)、カンボジアトラスト(義肢装具の製造・提供)、エマーゼンシーホスピタル(地雷被害者の治療)、MAG(地雷除去)、希望小学校、クメール伝統織物研究所(伝統技術の保護)、インターバンド(除隊兵士の生活再建)など多岐に渡ります。

エマーゼンシーホスピタル(緊急病院)は、緊急に治療が必要な人が運び込まれています。私たちが訪問したときにも、外科手術が行われていました。この

病院には今でもたくさんの地雷被害者が運び込まれています。とてもショックだったのは、10年近く、地雷除去要員(ディマイナー)として働いていた人が、除去作業中に地雷に触れてしまい、脚を切断しているところを見たときでした。彼らの悲痛な表情に、未来



地雷によって足を失った被害者
(エマーゼンシーホスピタル)

への不安を読み取ることができました。

また、今回のツアーの中で、地雷ゼロ宮崎が支援しているMAG(地雷除去団体)の地雷除去現場を訪れたときは、圧巻でした。その地雷原では過去、約1000個の地雷

が処理され、訪れた日だけでも12個の地雷が発見されました。何度もスタディツアー参加している方は「今までに訪れた地雷原の中で、一番恐怖を感じた」と感想を伝えてくれました。

地雷を中心として現実を知り、どうしたら地雷のない世界をつくることができるのか。現地に足を踏み入れて、考えることは、とても重要だと思います。来年も3月にカンボジアでのスタディツアーを実施する予定です。詳細はテラ・ルネッサンスホームページ、メールマガジン、または機関誌にてお知らせいたします。

【2005 年春 カンボジアスタディツアー 予定】

時期:2005年3月下旬の1週間

場所:カンボジア王国 プノンペン市・バタンバン市・シエムリアップ市

参加費:18万円~20万円前後

対象:テラ・ルネッサンス会員(参加申込時に会員になることも可能です)

企画:テラ・ルネッサンス(平和NGO)

■海をわたる えんぴつ大使・・・届けカンボジアに

京都府内の文具店の連合体、「京都文紙事務用品協同組合」様のご提案により、「えんぴつ大使」キャンペーンが4月に実施されました。

店頭にてあまり使わなくなった鉛筆などの文房具を回収し、カンボジアの子どもたちに届ける試み。同時に、文具店での対面販売のよさを改めてお客様に理解していただく機会にしようとするものでもあります。

4月末でキャンペーンは終了し、約2万本もの鉛筆を含む、文房具が「京都文紙事務用品協同組合」様に寄せられました。集められた文房具は、テラ・ルネッサンスを通じて、カンボジアで孤児院を運営するクメール財団ほか、いくつかの現地 NGO に届けられます。

また、「えんぴつ大使」キャンペーンに関わった方々で、派遣団を結成し、実際にカンボジアを訪れ、現地で子どもたちに文房具を手渡す計画もあります。

現在、NGO と企業や行政とのコラボレーション（協働）が注目されていますが、地元・京都で長年経営されている文具店の皆さまとの協働作業は、私たちにとっても大きな財産となりました。

“不要えんぴつ”持ってきて 京都の文具店 途上国児童を支援

(2004年4月9日 京都新聞より)

京都市内や府南部の文具店でつくる「京都文紙事務用品協同組合」(竹内英一郎理事長)は、新年度を迎えたのを機に、家庭などで不要になった鉛筆を店頭を持ち寄ってもらい、カンボジアの子どもたちに届ける「えんぴつ大使」キャンペーンを始めた。

スーパーやコンビニエンスストアで文具を買う人が増える中、対面で販売する文具店の良さを見直してもらおうとともに、途上国の子どもたちの教育を支援する狙い。

未使用かあまり使わないまま、机の引き出しなどに眠っている黒鉛筆、色鉛筆が対象で、今月末まで約150の加盟店の店頭で募る。集まった鉛筆は、カンボジアで地雷被害者の支援活動をしている京都市伏見区のNGO(非政府組織)「テラ・ルネッサンス」を通じて、同国の児童たちへ届ける予定。

組合では先月下旬から、「えんぴつ大使」キャンペーンをPRするため、ポスターや回収箱を作って加盟店に置き始めた。すでに鉛筆メーカーからの寄付を合わせ約2500本の鉛筆が集まっているという。竹内理事長は「小さな試みだが、お客さんと文具店、カンボジアの子どもをつなぐきずなになれば」と話している。

写真＝手作りのポスターと回収箱で「えんぴつ大使」キャンペーンの協力を呼びかける竹内理事長(京都市中京区)



国際協力事業について

地雷除去は世界的な関心が集まる中、除去スピードは確実に速くなっています。特にカンボジアでは紛争終了後、政府機関・NGO等の粘り強い除去作業の結果、2012年までに埋設地雷の除去を完了する予定でいるそうです。

地雷除去の見通しが見えてきたとしても、地雷による被害者の生活状況は改善したわけではありません。多くの被害者がとても困難な暮らしをしているのも事実です。

そこで、カンボジアにおいては地雷除去支援から、地雷被害者への直接的な支援(義足提供)、本人・家族を含むコミュニティー再建への支援(教育支援)に軸足を動かすことに致しました。同時に、義肢装具士を目指すカンボジアの若者を、カンボジアトラスト併設の義肢装具士

学校で受講させるプロジェクトに、友好団体「地雷廃絶と被害者支援の会・熊本」と共同で資金提供を行います。実施期間は3年間、予算額は約135万円を予定しています。

地雷除去支援においては、カンボジア以外で地雷除去が強く求められている国での支援を行うべく、調査を行います。

また、テラ・ルネッサンスが小型武器問題に取り組むのに合わせて、小型武器関連の支援事業として、IANSA(小型武器国際行動ネットワーク)加盟の(特活)インターバンドが実施している除隊兵士の生活再建への支援を開始いたします。支援状況につきましては、テラ・ルネッサンスホームページ、機関誌等を通じて、皆様に常にご報告できるように努力してまいります。

支援先	支援内容
地雷除去 ヘイロートラスト	地雷除去、それにまつわる活動への資金提供 (地雷除去要員への技術訓練も含む)
地雷被害者支援 カンボジアトラスト 《新規事業含む/複数年事業》	①地雷被害者に対する技師装具の無償提供事業への資金提供 ②カンボジア人技師装具士を育成するために、カンボジアトラスト併設の技師装具士学校に招聘し、3年間の育成プログラムを受講させるプロジェクトへの資金提供。(450,000円/年×3年)
地雷埋設国の生活再建 ヘイロートラスト	地雷埋設地帯での井戸建設、食糧支援
除隊兵士への生活再建 (特活)インターバンド 《新規事業/単年度事業》	除隊した兵士で障害などのために生活再建が困難な家庭に、小規模ビジネスを開始するための資金を6ヶ月間提供する(500,000円/年)

啓発・キャンペーン活動について

啓発・キャンペーン活動は世界の現状を多くの方に知って頂き、支援活動に参加する契機を提供する大切な事業です。テラ・ルネッサンスでは設立以来、講演やワークショップ、様々なイベントを通じて啓発・キャンペーン活動を実施してまいりました。

2004年は従来のテラ・ルネッサンス単独の啓発・キャンペーン活動と共に、加盟団体との連携のもと、「地雷廃絶」、「小型武器の規制」、「子ども兵徴兵の禁止」の各キャンペーン活動を展開する予定です。

キャンペーン内容	加盟団体名
地雷	地雷廃絶日本キャンペーン
小型武器	小型武器国際行動ネットワーク
子ども兵	世界子ども兵禁止連盟
京都府内の NGO ネットワーク	京都 NGO 協議会

運営について(会員拡大)

現 状:

テラ・ルネッサンスの活動(国際支援活動を除く)は会費・寄付で 100%賄われています。

テラ・ルネッサンス設立初年度(2001年10月-2002年8月)で支出が約100万円、2年目(2002年9月-2003年8月)で約300万円計上しています。一概に比較はできませんが、予算規模が1年で約3倍もの大きさになっています。このことはテラ・ルネッサンスの活動の広がりを表しているものと言えます。

急激な活動拡大を支えてくださったのが、皆様の会費です。特に『テラ・ルネッサンスファンクラブ(月会費5,000円/口)』が設立されたこと

が、活動拡大に大きく貢献しています。

今後、小型武器、子ども兵に関する啓発・キャンペーン活動を展開するにあたり、広報物(ブックレット、ビデオ、チラシ)の作成費用、国際会議への参加費用などの経費負担が発生してまいります。これらの経費は基本的に事務局経費(会費・自由寄付)によって賄われます。

よって、幅広い活動を行うためには、会費収入の増加、安定、すなわち、会員拡大が急務となっています。会員拡大のための様々な施策を実施してまいります。

計 画	目 標
(1)財政規模の拡大、安定 ⇒今後も会費・寄付等の自主財源による経営を続ける ⇒活動拡大には会費、寄付の増強(会員拡大)が必要	〈個人〉 500名(現在220名、年会費3,000円) 〈サポーター〉 30名(現在10名、年会費30,000円) 〈ジュニア〉 10名(現在3名、年会費1,000円) 〈ファンクラブ〉 30名(現在25名、月会費5,000円/口) 〈法人・団体〉 20団体(年会費50,000円)
(2)会員拡大のために ⇒会員拡大のために会員サービスの更なる充実化を図る	会員サービス:(現行) ニュースレター「結晶母」(年4回発行) 会員サービス:(2004年8月1日以降) ☆活動報告集「結晶母」(年4回発行) ☆FAX/メール通信「テラルネニュース」(月1回発行)

※結晶母はテラ・ルネッサンスの活動方針、活動報告を伝えるだけでなく、地雷廃絶国際キャンペーン(ICBL)、小型武器国際行動ネットワーク(IANSA)、世界子ども兵禁止連盟(CSC)からのニュースを掲載するなど、「地雷」、「小型武器」、「子ども兵」の最新情報を提供し、世論喚起に貢献する啓発用雑誌を目指します。

※「テラルネニュース」は FAX・メールの利便性・即時性を活用し、テラ・ルネッサンスの最新イベント情報、活動状況を可能な限りタイムリーにお届けいたします。

■今後の予定

07月07日(水) 京都市立高雄中学校(京都)
07月08日(木) 月例ミーティング(京都)
テーマ:DDR(武装解除・動員解除・社会復帰)
発表者:江角泰(立命館大学院国際関係研究科)
07月13日(火) 株バービック(大阪)
07月17日(土) ぼんぽこ地球村館林(群馬)
07月18日(日) ネットワーク地球村たかさき(群馬)
07月19日(月) 株バービック(大阪)
07月26日(月) 市民生協にいがた(新潟)
07月31日(土) 神慈秀明会京都支部(京都)
08月21日(土)
~22日(日) 『森・気・咲』展(京都)
08月25日(水) 福知山青年会議所(京都)

09月09日(木) 乙訓青年会議所(京都)
09月09日(木) 月例ミーティング(京都)
テーマ:未定 発表者:未定
09月12日(日) 21世紀PEACE講座(京都)
講師:長有紀枝(JCBL運営委員)、神谷昌道(立
正佼成会一食平和基金事務局)
09月26日(日) 希望の光(東京)
講師:蓮村奮(医師)、岡田多母、鬼丸

※太字はテラ・ルネッサンス主催イベントです。問い
合わせは事務局(075-645-1802)

※下線は代表講演です。一般公開のイベントは
問合せ先を明記しています。

一緒にテラ・ルネッサンスを造っていきませんか(会員募集)

テラ・ルネッサンスは世界平和の実現を目指す市民団体です。多くの市民が参加することで、世界を変える力が大きく生み出されます。テラ・ルネッサンスの趣旨に賛同される方は、ぜひメンバー登録をお願いします。皆様の想像力と行動が、確実に世界を変えていきます。

【会員特典】

- ・活動報告、平和問題レポート掲載の会報誌(季刊)の贈呈
- ・テラ・ルネッサンス主催のイベントの優待 など

【会員種別】 入会金 1,000 円(登録手数料、入会時のみ)

会員	個人会員 3,000 円/年
	ジュニア会員 1,000 円/年(18歳以下)
サポーター	サポーター会員 30,000 円/年
	団体会員 50,000 円/年(団体のみ)
	ファンクラブ会員 ひと口 5,000 円/月

【例】個人会員 入会時は入会金+年会費で 4,000 円 2年目からは会費(3,000 円)のみ
郵便振替 00950-7-133760 加入者名 テラ・ルネッサンス基金

発行:テラ・ルネッサンス(代表 鬼丸 昌也)

612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町5-23内藤マンション 302号室

TEL&FAX 075-645-1802 Mail tokotowa@anet.ne.jp

URL <http://www.terra-r.jp> (ホームページからメールマガジンも登録できます 現在 357 名が購読中!)